

県内の小中学校教員を対象にした教師力アップ講座が28日、新潟市中央区の新潟教育会館で開かれた。阿賀野市の三遊亭

中央区

慎楽さん(59)は「教室は寄席」と題し、大勢を前に語る心構えや聴衆を引き付けるポイントを語った。

円楽さん門下生が講座

会が主催した。一語る力・授業力をテーマに三つの講座を開き延べ約80人が参加した。

5代目三遊亭円楽さん門下の慎楽さんは、寄席では観客を引き込むように目線やしげさに気を配つてことや、客に話題を振りながらも適切なタイミングで主導権が自分に戻るよう話を組み立てたなど、教室でも応用できるテクニックを紹介。

「落語を100覚えて
も、ものになるのは一つ
あるか。懸命にやつて一
つでもできることを身に
付け、自信をもつてほし
い」とエールを送った。最
後に「皆さんには毎日、お
客がいる。こりゃいい」と
うらやましがり、笑いを
誘つた。



ユーモアを交え、観客を引き付ける方法を語る三遊亭慎斎さん=28日、新潟市中央区

教師力向上のコツ 語る

落ち着いて詐欺対応を

防犯啓語を披露する高橋元巡査／新潟市中央区

新潟中央署の若手警察官がおれおれ詐欺対策の防犯落語を考案し、新潟市中央区で先週開かれた鏡淵小学校区防犯協会の研修会で初披露した。

参考したのは、同署の市役所前交番に勤務の高橋元(はじめ)巡査(23)。新潟大落語研究部のO Bで、越後亭燕子花(かきつばた)の高座名を持つ。落語仲間や先輩署員からアドバイスを受けながらネタを考えた。

着物姿で高座に上がった高橋さんは、息子をかたって高齢者の女性に現金を用意させ、ショッピングビルに持参させよ

中央署の巡査 初披露

うとする詐欺犯の手口を紹介。詐欺に気付いた女性が警察に通報し、犯人が逮捕されるまでをユーモアたっぷりに演じた。

防犯落語で知られる県警OBのアマチュア落語家・三流亭楽々さんを「あこがれの人」と話す高橋巡査。「不審電話がかかってきたとき、自分の話を思い出して犯人を撃退してもらえたならうれしい」と話した。

中央区の五十嵐瑠美子さん(77)は「おもしろかったし、ためになった。新作ができたらぜひまた聞きたい」と喜んでいた。